

通巻32号 令和6年3月15日発行（年1回発行）

ISSN 1348-611 X

石川県作業療法学術雑誌

2023 No.32

主催：(社) 石川県作業療法士会

目 次

巻頭言 「学ぶことの楽しさ」

..... 恵寿総合病院 川上 直子

特 集 「高次脳機能障害の基礎から生活の拡大」

..... 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター 早川 裕子 1

実践報告

1. 左視床出血後の独居事例への自動車運転および

職場復帰を目指した長期外来リハビリテーション介入

..... 恵寿総合病院 五十嵐満哉・他 7

2. 生きがいの調理の再開に踏み出せない症例への作業歴と主体性を重要視した関わり

..... 金沢脳神経外科病院 袋井かおり・他 13

3. 通所リハビリテーションから通所介護への移行が実現した

人工股関節置換後の認知症高齢者への支援

..... 能美市介護老人保健施設 はまなすの丘 明福真理子・他 19

4. 感覚障害を呈した右片麻痺の事例における食事摂取再獲得を目指した一例

～段階付けたスプーン操作練習による介入～

..... 恵寿総合病院 田口鼓太郎・他 25

5. 橈骨遠位端骨折後の長母指伸筋腱皮下断裂に対し小指伸筋腱を用いた腱移行術の治療経験

..... 国立病院機構 金沢医療センター 前田 美保・他 31

6. 薬物療法中のがん患者に対する作業療法

～病態に合わせた目標設定によって社会復帰が可能となった一例～

..... 城北病院 吉田 翔 37

7. 慢性硬膜下血腫を呈した高齢女性の退院に向けた支援

～夫の院内一泊の介護体験を通し、夫と事例双方が合意した施設退院～

..... 芳珠記念病院 田家澤茉実・他 41

8. 経皮的冠動脈インターベンション後のせん妄や抑うつに対して作業活動を導入した一例	城北病院	廣瀬	大星・他	47
9. 当院のNASVA委託病床におけるリハビリテーションの現状と課題	金沢脳神経外科病院	川崎	愛・他	51
10. 症例が希望していた自宅内の生活を夫の介護なしで獲得できた一例 －夫の転倒への不安と介護負担軽減－	芳珠記念病院	新谷	唯・他	57
11. 右片麻痺を有する腰椎圧迫骨折患者への入浴・家事再開に向けた介入 －自室内で家事を完結していた日中独居の事例－	芳珠記念病院	角	風華・他	65
投稿規定				71
執筆要領				72

巻頭言

「学ぶことの楽しさ」

恵寿総合病院 川上 直子

作業療法士になったばかりの頃、先輩たちを見て「学生じゃなくなってもこんなに勉強しなければならないんだ」と勉強嫌いな私は何度も打ちひしがれた。それでもずっと臨床は楽しく、ここまで続けてこられたのは、先輩たちが日々アドバイスをくれ、事例をまとめる中で治療の効果を一緒に考えてくれ、ひとつひとつの知識や技術が自分のものになる実感を持てたからだと思う。今ではアドバイスをしなければならない立場になったが、臨床実践中や事例をまとめている中で後輩たちから教えられること、ワクワクをもらえることも多い。

第31回石川県作業療法学会の特別講演で早川先生が特に急性期は患者にとって特殊な環境とおっしゃっていた事が印象に残っている。私が作業療法士になった頃とは比較にならないほど短い入院期間で退院支援を行うには、生活期をイメージできなければならない。生活期のリハビリでは、まだ回復途中の対象者も増え、昔で言う「維持期」ではなくなっており、生活の視点も機能回復の視点も必要である。お互いの連携の大切さは言うまでもない。

学会は発表の準備は大変だが、それに十分見合うだけのワクワクをもらえ、他施設の作業療法士との交流を深め、自身の作業療法を見直せ、次からの臨床の楽しさにつながる場であり、これからもより多くの方たちと共有していきたいと思っている。

最後になったが、1月1日の能登半島地震では私も被災者となり、職場・自身の生活とも平常ではない日々を送る中で、作業を継続拡大する大切さと難しさを感じ、当たり前研修などを受けられていたことがとてもありがたいことだったと感じている。この場を借りて、同じ能登地区で苦境に立ち向かっている方たちにエールを、支援活動に尽力してくださっている方々にお礼を申し上げたい。

編集後記

令和6年1月1日に令和6年能登半島地震が発生しました。犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表し、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。いまだ安否が不明な方、避難を余儀なくされている方も多く、被災地の一日も早い復旧・復興を祈っております。現在は全国から災害リハビリテーションチーム（JRAT）が被災地および石川県内の避難所の支援に駆けつけてくれています。このような時にこそ「作業」や「役割」が人の生活を支え、人に生きる力を与えることを目の当たりにし、作業療法の魅力や奥深さを改めて実感しました。今は先がまだ見えない状況ではありますが、歩みを止めなければ必ず前進し、光が見えるときがくることと信じております。

今年も無事に本誌の発刊に至りました。ご投稿いただき、誠にありがとうございました。また本誌は会員の学術活動の教育の機会でもあります。限られた時間の中で丁寧な査読や編集にご協力頂きました皆様には心より感謝申し上げます。

学術部担当理事	麦井 直樹
	堀江 翔
学術誌編集委員長	中嶋 理帆
編集委員	岡本 聡美
	西 悦子
	小林亜里沙
	仁木 裕也
	下出 菜月
	武田 千絵
	高間 達也

石川県作業療法学術雑誌（第32巻 1号）（通巻32号）

2024年3月15日発行

編集 公益社団法人 石川県作業療法士会

発行所 公益社団法人 石川県作業療法士会

印刷 ヨシダ印刷株式会社